

がん化学療法指示書

登録番号 334

作成日 2022/6/8

レジメン名	レンパチニブ+ペムプロリズマブ療法
診療科・対象疾患	がん化学療法後に増悪した 切除不能な進行・再発の子宮体癌
投与間隔	3週ごと
投与サイクル数	PD1になるまで

Chemo Navi

薬剤名	成分名	投与量	投与日
キイトルーダ	ペムプロリズマブ	200mg/body	day1
レンピマ	レンパチニブメシル酸塩	20mg/body	連日

	滴下順	抗癌剤	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	投与スケジュール							
							day1	day21	
治療内容	注射	Rp1	生理食塩液	100mL	任意	ルート確保	●							
		Rp2	生理食塩液	100mL	30分	点滴静注メイン	●							
		癌	キイトルーダ(ペムプロリズマブ)	200mg										
		Rp3	生理食塩液	50mL	15分	経過観察・フラッシュ用	●							
	内服	※レンピマ(レンパチニブ)カプセル20mg/日を連日投与												
その他必要薬剤														
総投与時間	55分													
血管外漏出リスク	キイトルーダ(ペムプロリズマブ):非壊死性抗がん剤													
投与時の注意事項	キイトルーダ(ペムプロリズマブ)はフィルター付きルート要 手足症候群対策として、ヘパリン類似物質含有軟膏等の保湿を行う。													
備考欄	Infusion Reaction Grade2の場合、キイトルーダ(ペムプロリズマブ)の投与を直ちに中止する。1時間以内に回復する場合には、投与速度を50%減速して再開する。 Infusion Reaction経験例では、次回より投与30分前に以下薬剤で前処置を行う。 レスタミンコーワ10mg 5錠 アセトアミノフェン300mg 2錠 ※ レンピマ(レンパチニブ)は収縮期血圧 ≥ 140 mmHg又は拡張期血圧 ≥ 90 mmHgのとき、投与を継続し、降圧剤の追加を行うこと。 最大限の降圧治療に関わらず、収縮期血圧 ≥ 160 mmHg又は拡張期血圧 ≥ 100 mmHgのとき、レンピマを休業する。 (詳細は適正使用ガイドを参照)													